

## 第6回 ふくまる夢たまごセミナー

日時 9月21日（金曜日）18時～20時  
場所 市庁舎7階大会議室  
内容 講話「池田市探訪～人口から読む池田・日本の歴史～」  
講師：田中晋作先生（山口大学人文学部教授）



今年も山口大学から田中晋作先生をお招きして、第6回ふくまる夢たまごセミナー（池田市探訪）を開催しました。22名の塾生のみなさんが出席してくれました。

今回は、昨年同様、「池田市探訪～人口から読む池田・日本の歴史～」と題し、歴史の見方と日本の人口減少問題について、たくさんの資料をもとに興味深いお話をさせていただきました。

はじめに、「日本史」として学ぶ歴史と、潜在的な意識の中に形成される「地域認識」としての歴史、この二つの歴史の捉え方についてお話していただき、地域の歴史や文化を学んでいくための基本的な立ち位置を示していただきました。

こうした二つの歴史認識を踏まえたうえで、現代の市町村の領域形成に至る過程（池田市の成立）と、社会発展の原動力は「人口」の増加と食料生産（採取）にかかわる労働の削減によることを、弥生時代にさかのぼってお話しされました。土器の発明が人口増加の起点となったという田中先生のお話には、塾生の多くが驚きの表情を浮かべていました。



こうして人口の増減が意味するところへと話は進んでいきました。

日本の人口推移と出生率、池田市の人口と山口市の人口推移の比較、人口減少が意味するもの等々のお話から、人口減少が文明を崩壊させることにつながっていくという、世界・地球規模で考えなければならないようなお話に発展し

ていきました。

塾生のみなさんは、少し難しい内容ではありましたが、最後まで興味を持って聞き入り、改めて少子化問題や人口減少が引き起こす影響について考えることができたようです。

その後の班別協議では、人口減少問題を考えることの難しさ、子どもたちにもどのように考えさせていけばいいのか、人口問題を教育とどう結び付けていけばいいのか、人口減少をマイナスにとらえずプラスに転化できないか、出生率の低下がこれからの社会や教育現場をどう変えていくのか等々、熱い議論がなされていました。



### <塾生の感想から>

○ 教科としての「歴史」のイメージは、“結局は暗記”というネガティブで表面的なものでしたが、本質的な目的は、過去に起こったことから現在・未来につなげるためにはどうすればよいのかを自ら考える学びだということが分かりました。そして、日本の直面している問題として、人口減少があり、地域の核である学校までもが現在なくなりつつあります。私たちができることは何なのか、とても難しいですが、考えて議論していく必要があると思ひ

ました。児童生徒もディベートなどを取り入れて身近な問題として感じられるように工夫すれば、子どもならではの、大人では思いつかないような意見もたくさん出るのではないかと思いました。教師の立場として何ができるのか、これから考えて、自分自身が動いていく必要があると思いました。

○ 人口から読む、ということで私は家庭科教員としての見方から考えてみました。家庭科でも人口ピラミッドを扱います（高齢者のところで）。その時に、日本の人口について子どもたちにどう考えさせようか悩ましく思いました。個人の生き方が多様化し、女性も社会進出するような世の中で、個人の生き方の選択と人口を増やす（＝女性が2・3人以上子どもを産む）ことの二つのことをどう伝えるべきか、考えさせるべきか、難しいなと思います。ただ、一つ思い浮かんだのは、政治家があれこれ言っているように、子どもたちに政策を考えさせる活動をする、実際に将来を担う子どもたち自身の考えが聞けて、また、自分ごととして人口の問題をとらえられるのではと思いました。

○ 本日のセミナーを聞いて、歴史についての考え方が変わりました。歴史とは暗記する科目ではなく、視点を増やし、考えることで、今の自分について学び、未来を考える科目だと感じました。地域アイデンティティから無意識の領域が生まれるというお話から、排他的というマイナスな面もあるけれど、地域によって個性があるというよい面があると思いました。個性を学ぶことで、多様性について考えることができれば、排他的にはならないとも思うので、児童生徒には良く考えさせることが大切なのだと思います。

人口問題については、知ることができたのは良かったですが、うまく教育に結びつけることができませんでした。子どもを多く産むことがえらいわけではないと思うし、社会が平和だから出生率が上がらないのかなとも思うので、他国の歴史と比較して考えたら、また違った視点で考えることができると思います。